

IV-1 マナーをどう教えますか

エピソード1

私は夫と6年生の芳子、4年生の雅夫の親子4人で、電車に乗る順番を並んで待っていました。電車が到着しドアが開くと、後ろから低学年くらいの子が「ぼくが、席をとってあげるよ」と真っ先に乗り込んでいきました。車内に入るとさっきの子が母親の場所を確保し、母親も笑顔で「ありがとう」と言って座りました。あっけにとられていると、反対の降車側のホームから中学生が乗り込み、既に座席に座っています。これを見ていた芳子と雅夫が「ちゃんと並んでいると座れないから損だよね」と言い始めました。私たち夫婦を含め、低学年の子にも、中学生にも誰も注意をする人はいませんでした。



Work① 私(母親)は芳子や雅夫にどのような言葉掛けをしたらいいでしょう。

エピソード2

中学1年の娘の啓子が風邪をひいたので病院に連れて行きました。“病院内では携帯電話の電源を切ってください”と掲示されていました。

私は娘に「電源をちゃんと切った?」と言うと、体調が悪いこともあり、「ちゃんとマナーにしているよ」と、とても不機嫌そうな表情で答えました。

待合室で順番を待つ間、啓子は“マナーモード”にして、そうっと友だちにメールをしていました。音も鳴らないようにして、まわりに迷惑をかけているわけではありません。また、啓子の機嫌を損ねたくなかったので私は黙っていました。

この様子を見ていた看護師さんが、娘に「携帯電話の電波で医療機器が誤作動をおこして命にかかわることもあるのよ」と静かに話してくれました。

娘も私もハッとしました。



Work② 看護師さんの言葉に対して私(母親)はどのように対応すべきか考えてみましょう。

Work③ Work①とWork②についてグループで話し合しましょう。**Work④**

子どもに守らせたい
マナーを書きましょう。

*

*

*

Work⑤

今後どのような姿勢で
子どもに向き合うべきか
考えましょう。

*

*

*

資料

あいちの教育に関する アクションプラン



街頭広報ポスター（大人版）
愛知県教育委員会

アドバイス

小学校の高学年になれば、多くの子は物事の善悪は理解できます。ただ、時として、「本当はこうしたほうがいいと思うんだけど、どうかな?」「分かっているけど、つい…」など、判断に迷ったり、他人に迷惑を掛けてしまったりする場合があります。これは、私たち大人でも同じです。自分の行動には責任が伴うことを自覚させ、より望ましい判断、行動ができるようにしたいものです。



Ⅳ-2 親子でイライラしてませんか

エピソード

5年生の友也は、最近言葉遣いがひどくなり、母親は度々注意しています。今日も、ランドセルを放り投げて家を出て行き、暗くなってから帰ってきました。

母親が「どこへ行ってたの?」と聞いても、何も答えず2階に上がろうとします。

「宿題したの?やることやってから遊びなさい。何よ、このランドセルの置き方は!」と、立て続けに注意する母親に、友也は「うるさい!」と、どなりました。

その言葉にかっとなった母親は、「何よ、その言い方は!」とどなり返しました。

「ヒステリー!」「こら!」言葉はますます激しくなるばかりでした。



Work①

友也、母親役を決めて、ロールプレイをし、それぞれの立場になって考えてみましょう。

Work②

なぜ友也はこのような言葉遣いをするのか考えましょう。

Work③

穏やかに会話する言葉や態度を見つけ、ロールプレイをしましょう。

① きつい言葉を柔らかく受け止めるには、どうすればよいでしょうか。

② もっと穏やかになる言葉をさがしましょう。

「どこへ行ってたの?」



「宿題したの?やることやってから遊びなさい。何よ、このランドセルの置き方は!」



「何よ、その言い方は!」



資料

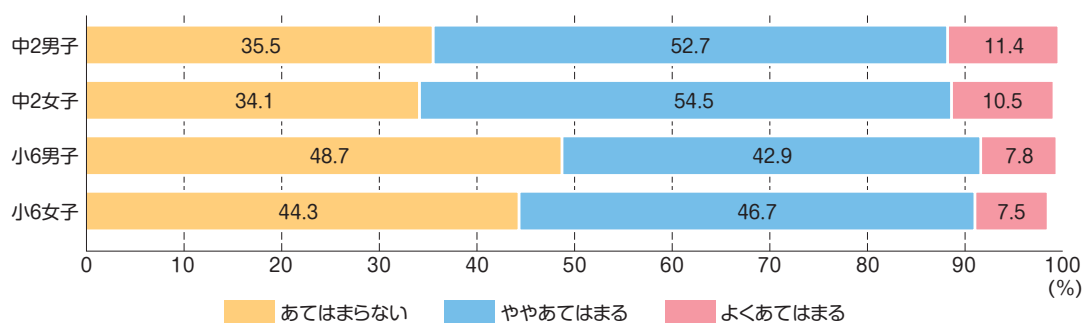
◆ 最近子どもを叱ったこと

* 最近子どもを叱ったこと（H21家庭教育資料:愛知県教育委員会）*



◆ 親の言うことを聞かない小中学生の意識

* 私は親の言うことを聞かない（文部科学省 家庭教育手帳より）*



アドバイス

思春期になると子どもは親には見えない自分の世界を持ち始めます。また、自分ではコントロールできないイライラを抱えることもあります。

このため、第2次反抗期と呼ばれるような子の親にとってはコミュニケーションがとても難しい時期に入ります。

そのような思春期の子ども言葉の変化は社会化の表れであり、成長の過程の一つとも考えられます。

ただ、乱暴な言葉は気が付かないうちに相手を傷付けることもあります。感情的になった子どもの言葉には、一呼吸おいて話し掛けてはどうでしょう。そして、穏やかなときに、言葉遣いについて親子で話し合うことも必要ですね。



Work④

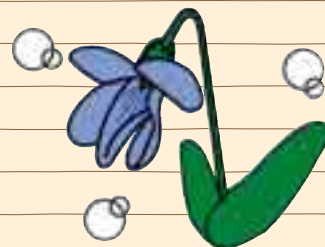
思春期の子どもに対するコミュニケーションの取り方や態度を考えましょう。

IV-3 第二次性徴にとまどう子どもに寄り添いましょう

小説：すみれはブルー

落合恵子 1991

自分の体から、以前とは違った匂いが瞬間、立ちそうに思う。自分の体がどこか生臭い。おかしいのは、ケイだけじゃない。私だって、と晶子と思う。なんとなく体も心も重くだるい。体が、自分の知らないところで勝手に変わっていく……。それが晶子の憂鬱だった。風呂上がり、晶子は裸のまま鏡の前に立つことがある。見たくないのに検分してしまう不快さがある。ふくらみはじめた乳房。丸みを帯びはじめた腰や下腹。なんだか不潔な気がして気持ち悪い。私が許可したわけでもないのに、体だけ変わっていくなんて……。ついこの間まで、晶子は晶子の体の女王だった。鉄棒の逆上がりも、跳び箱も木登りも、晶子の命ずるままに体は動いた。いまは違う。あの面倒な生理。走ると揺れる乳房。すべてが、うっとうしい。



Work①

初潮を迎えた晶子は、体の急激な変化をどのように思っているのでしょうか。
あなたが初潮を迎えたときのことも思い出してみましょう。

Work②

晶子の母親として晶子の思いを知ったら、
あなたはどのようにしますか？



Work③

第二次性徴を迎えた男の子の体の変化には、「夢精」があります。息子の布団を干そうとしたとき、汚れたパンツが出てきました。あなたならどうしますか。

Work④

Work①から③についてグループで話し合ってみましょう。

資料

* 表 性的成熟の現れに対する心理的受容度 *

数字はすべて%

心理的受容度	男 子			女 子		
	変 声	恥毛の発毛	精 通	乳房の発達	恥毛の発毛	初 潮
大人になれて、とてもうれしかった	2.9	4.4	2.5	11.6	7.0	15.7
大人になる上で当たり前だと思った	26.1	37.8	47.5	17.4	15.5	20.0
別に何とも思わなかった	56.5	34.4	30.0	58.0	38.0	18.6
嫌だったが、仕方ないと思った	10.1	18.9	12.5	11.6	31.0	38.6
とても嫌で、出ればそうなってほしくないと思った	4.3	4.4	7.5	1.4	8.5	7.1

【引用：齋藤誠一 1990「思春期の身体発育が心理的側面に及ぼす効果について」青年心理学研究会1989年研究大会発表資料】

アドバイス

第二次性徴の受け止め方は、子どもによって様々です。すんなりと受け入れていくことのできる子どももいますが、一方で大きな困難さを感じる子どももいます。自分の体の急激な変化を通して、周りの人間関係や物事に対するとらえ方も大きく変わっていきます。感情の揺れ動きも激しくなり、自分の世界に閉じこもることもあります。

また、第二次性徴の起こるタイミングがほかの子に比べて早い、遅いという違いも、受け止め方の違いにつながります。

自分の性を引き受けていくのは大変な仕事です。第二次性徴経験者の先輩として、温かくサポートしていきたいですね。



Ⅳ-4 巣立ちゆく子どもを見守りましょう

エピソード

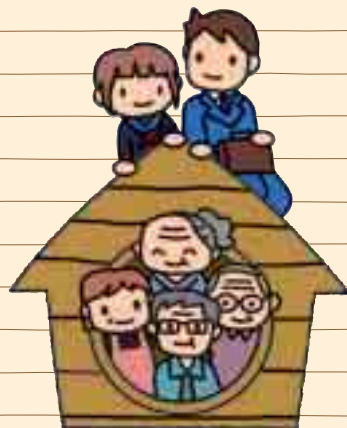
中学2年生の朋子は両親・高校3年生の兄と祖父母の6人家族です。両親は共働きで、父親は1年前から県外へ単身赴任をしています。父親は月に1度月末に帰宅します。普段の食事は、兄と祖父母の4人でしています。

6月、帰宅した父親から、「来月は帰って来ないが、子ども達も夏休みに入ることだし、赴任先の近くにある温泉を予約したよ。みんなで遊びに来いよ」という話がありました。父親の赴任先には行ったことがないので朋子は行きたいと思いましたが、その日は部活の試合が予定されている日でした。大学受験を控える兄も模擬試験が予定されていました。

2人は、参加が難しいことを話しました。父親は不機嫌になり席を立ち、翌朝早く赴任先へ戻って行きました。そんな父親の姿を見て、朋子は腹立たしいような悲しいような気持ちになりました。

次の夜、祖父母と兄と4人で食事をしていると、間もなく結婚50年を迎えるので、父がそのプレゼントとして温泉旅行を企画してくれたと、祖父母がうれしそうに旅行のことを話し出しました。

朋子と兄は精一杯の笑顔をつくり、その話を聞いていました。



Work① 各自の気づきをメモし、発表しましょう。

・話を聞いた時の朋子の気持ち

・不機嫌になり席を立った父親の気持ち

Work② Work①で気付いたことをもとに「分かり合える親子関係」について話し合しましょう。

・父親はどんな対応をするとよいでしょう。

・朋子はどんな話し方をすればよいでしょう。

アドバイス

子どものためにと考えていることが、必ずしも子どもにとってうれしいことばかりではありません。子どもの成長と共に、子どもの考えを聞いてから決めることが大切になる場面が多くなります。子どもの話を聞く姿勢を持ちましょう。



Work③

巣立っていこうとする子どもは、
家族に対してどんなことを感じているでしょうか。
グループで話し合しましょう。

資料

「子どもに語ろう」一言集 ～ふれあい 語り合い みとめあい～〈子どもから大人へ〉

【愛知県教育委員会より】

- ・言おう。いつもその一言。伝えられない。
言えないあまりにけんかばかり。いつか笑って話せる日。くるよね。
- ・「ありがとう」。心の中で言っています。
親に対する感謝の気持ち、どう表せばいいのだろう。
- ・私が大人になったら、父のような人と結婚して
母のような人になりたい! それが私の夢です。



アドバイス

子どもは、日々成長しています。

巣立ちゆく子どもの姿を見守るのは頼もしい反面、親にとっては少し寂しくもあります。一緒にいる時間が減り話をしなくなっても、それは子どもが巣立ちの準備を始めた証拠でもあるのです。子どもの成長の上で大切なポイントは抑えつつ、子どもが自分の世界をもち始めたことを尊重し、信じて、遠くから見守っていきましょう。



IV-5 子育てを振り返ってみましょう

Work① 子どもの心の成長や変化を感じるときは、どんな時ですか。



親の言動に対して、
批判的な言葉を言ったので、
「えっ…!」びっくりしたわ。

前は喜んで、ついて
きたのに、親と一緒にの外出を
嫌がるようになったときね。



・
・

Work② 現在、子どもの変化に不安を感じていることや心配していることは何ですか。



最近、話を
しなくなった。

学校に行き
たがらない。



・
・



Work③ そのとき、子どもにどんなことばを掛けましたか。



何か
悩み事
があるの？



学校で何か
あったの？

私に何か
隠してるで
しょう！



・
・

アドバイス

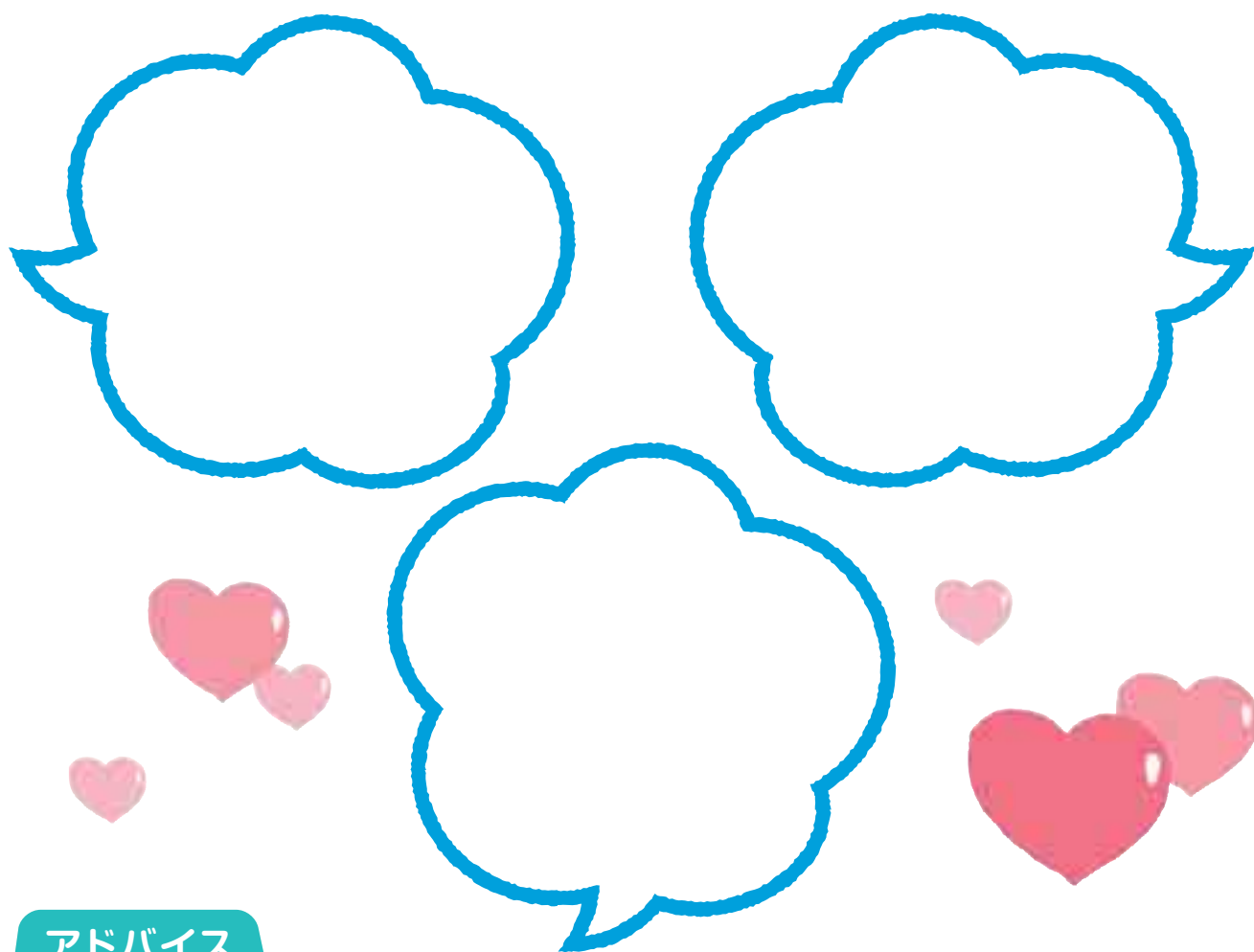
子どもは、心身共に成長しています。目に見える体の成長や変化は分かりやすいものですが、目に見えない心の成長や変化は、気づきにくいものです。時々、わが子の成長を振り返り、体の成長と共に、心の成長に目を向けてみましょう。

思春期の子どもの心は揺れ動いています。不安がいっぱいです。子どもの心に寄り添う言葉掛けを意識しましょう。親は子どもの鏡です。思春期の親子関係には信頼が一番大切です。



Work④

普段、子どもになかなか伝えられない大切な思いはありませんか。あなたの思いを書いてみましょう。



アドバイス

あんなに小さかった我が子も、今では親と変わらないくらい身体も成長しました。でも心はまだまだ成長の途中です。

乱暴な物言い、無口…。親にとっては分かりづらく扱いの難しい時期ですね。

しかし、子どもにとって親は安全地帯であり、いつでも帰れるという安心感のある大切な場所なのです。伝えたい想いはいつかきっと子どもに伝わっていきます。

それを願いつつ子どもも親もともに成長し、新しい家族の形へと変化していけるといいですね。

